④ 畜産

プロジェクト 多様なニーズに対応した牛肉生産

目　標
・肉用種繁殖雌牛の飼育頭数　R4：13,600頭　→　R10：14,200頭
・子牛市場価格（全国平均価格）との比較
R4：去勢 -1.7%（▲12千円）　→　R10：去勢 +1.7%
　　めす -4.0%（▲23千円）　　　　めす　0%

挑戦する内容
・高能力雌牛の県内定着促進による繁殖基盤の強化と肥育農家に選ばれる子牛生産
・「あおもり和牛」ブランドにつながる特色ある基幹種雄牛の造成
・全国和牛能力共進会での上位入賞と消費拡大プロモーションによる県産牛肉の認知度向上
・日本短角種の持続可能な生産体制の確立

関係者の声＝対話
・優秀な雌牛を県内保留し、繁殖基盤を強化する取組を継続してほしい（生産者、和牛改良組合）
・あおもりらしさを意識した種雄牛生産を進めてほしい（和牛改良組合）
・枝肉価格の上昇に向けて、県産牛肉の消費拡大の取組を積極的に講じてほしい（生産者）
・全国和牛能力共進会対策は全和県支部がリーダーシップを発揮し、関係者の連携をもっと強めて進めてほしい（関係団体）
・日本短角種振興は東北３県で連携して進めてほしい（関係団体）

役割分担
・改良組合、農協：遺伝的能力の高い牛の保留や県基幹種雄牛の活用促進
・産技センター　：ゲノミック評価の活用及び脂肪酸組成等を考慮した種雄牛の造成
・県　　：巡回指導や補助事業によるサポート、消費拡大プロモーションの実施

変革後の姿
・県産子牛の市場評価が高まり子牛市場価格が上昇し、繁殖農家の収益性が向上
・「あおもり和牛」をはじめ県産牛肉のブランド価値や認知度が向上
・県内での牛肉需要が増加し、肥育農家の収益性が向上

令和８年度計画

挑戦する内容

1　高能力雌牛の県内定着促進による繁殖基盤の強化と肥育農家に選ばれる子牛生産
・雌子牛のゲノミック解析の推進及びゲノム高評価繁殖素牛の導入促進（補助）
・所得向上プログラムを活用した巡回指導の実施
・子牛生産技術の向上による県産肉用子牛の品質向上

子牛市場でのゲノミック評価公表

2　「あおもり和牛」ブランドにつながる特色ある基幹種雄牛の造成
・脂肪形状等の新たな形質に着目した特色ある種雄牛の造成と生産現場での積極的な活用（産技センター）

3　全国和牛能力共進会での上位入賞と消費拡大プロモーションによる県産牛肉の認知度向上
・全和県支部や各和牛改良組合等の出品に向けた取組を後方支援
・全共出品候補牛の生産管理指導（巡回指導）の実施
・県産牛の県民認知度を高めるため、関係団体と連携してキャンペーンやイベント等を実施

全共出品対策会議

4　日本短角種の持続可能な生産体制の確立
・北東北３県との広域的な連携による改良の推進と収益を生み出す持続可能な生産体制の検討

対話
・畜産部会を開催（７月、１月）し、事業の進捗を把握するとともに、寄せられた意見を参考に事業構築
・和牛改良組合等を参集した会議（10月、２月）を開催し、和牛改良に係る意見交換を実施
・全国和牛能力共進会の出品関係団体を参集した会議（全和県支部主催）において、今後取組方針等を協議（２回）
・東北各県や各関係機関、生産者等と今後の生産体制や協力体制のあり方について意見交換を実施（１回）
・農家巡回により、生産現場の現状を把握（通年）